

被<sub>レ</sub>召下<sub>二</sub>及<sub>レ</sub>拷訊、同月、仲円僧正、智教、遊雅等被<sub>レ</sub>召下<sub>二</sub>とある。

このような西大寺流律僧の智暁の活動には、森茂暁氏も注目して「これは討幕準備にあたり、西大寺律僧が誇る陸上・海上交通を媒介にして諸国の情勢を的確に把握する必要があつたためではあるまいか」と述べている<sup>(63)</sup>。

また、岡見正雄氏は元弘の乱に際しての智暁・慶円・文観の活動から、「元弘の乱に西大寺や唐招提寺の真言律宗系の僧侶が背後に居たと考えられ、注意すべき事実なのである」との鋭い指摘を行っている<sup>(64)</sup>。しかし、西大寺門徒律僧といわれた智暁については、律宗側の文献にはその名を見出せず、彼の経歴については不明である。

ところで、「金沢文庫所蔵厳島大明神日記裏文書」年末詳静然書状には、次のよう<sup>(65)</sup>にある。

長福寺住持沙門 [ ] 事、被<sub>レ</sub>召<sub>下</sub>関東<sub>二</sub>候之条、 [ ] 為<sub>レ</sub>興<sub>(66)</sub>

正菩薩<sup>等</sup> 近之 [ ] 寺先師之旧好候、 [ ] 抛<sub>二</sub>名利<sub>一</sub>之<sub>二</sub>事<sub>一</sub>、列 [ ]

真言法流之正統候、 [ ] 大愁何事如<sub>レ</sub>之候哉、 [ ] 無<sub>レ</sub>力于啓達歟、若無

[ ] □之法滅、被<sub>レ</sub>休一門之 [ ] 之条、可<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>年来御 [ ] 早委旨使

者僧可<sub>レ</sub>令 [ ] 言、

[ ] 日

沙門静然

(花押)

[ ] 殿

この書状を差し出した良證房静然(一二五二―一三三二)は、叡尊の『授菩薩戒弟子交名<sup>(67)</sup>』にも「静然<sup>大和国人</sup> 良照

房」とその名を見出せる叡尊の弟子であり、正中二年(一三三五)に西大寺第四世長老となった人物である。静然は、『徒然草』第一百五十二段に「西大寺静然上人、腰かゝまり、眉白く、誠に徳たけたる有様にて、内裏へまゐられたりけるを」とあるように、西園寺実衡が内裏へ参内した静然の容貌に信仰する様子があつたのに対し、

日野資朝が、年を取っているから徳が高いようにみえるにすぎないと言い放ち、後日、実衡のもとへ年老いたむく犬を送って、「この気色尊くみえて候」と皮肉ったという逸話の登場人物として知られている。私は別稿でこの逸話をめぐって、田辺爵氏の研究を引照しつつ、これは正中の変が起きた元亨四年の話であり、静然が参内したのは後醍醐の二条富小路殿内裏であると推測した。<sup>68</sup>

この静然の書状は、破損のため文意が読みとりにくい。しかし、このように静然が後醍醐のもとに出入りし、おそらくは智暁とも昵近の仲であったことを前提にしてこの書状を読むなら、長福寺住持で叡尊の昵近の弟子でもあった沙門（律僧）が関東に召し下された（護送された）ことを心配し、かつ西大寺一門の法滅を気にかけて称名寺関係の世俗的立場の人（金沢氏？）に文書をもって力なくおそらくは滅刑の取り計らいを申し入れているこの書状は、断定はできないが、正中の変か元弘の乱における智暁の捕縛——おそらくは静然が西大寺長老として一門を統率する立場にあった元弘の乱当時——に際して書かれたものではあるまいか。もし、右の憶説が許されるなら、智暁は西大寺末寺の長福寺の長老ということになる。長福寺は『西大寺諸国末寺帳』の山城国の項に「長福寺」とあるように、京都の三条にあった律宗寺院である。ここから、智暁が朝夕宿直したといわれる二条富小路殿内裏までは近い。<sup>三</sup>

また、元弘の乱に際して後醍醐の側近として活躍した惠鎮円観は、天台の円頓戒を中興した人物として著名であり、彼は後伏見・花園・後醍醐・光厳・光明の五人の天皇に円戒を授けて五代国師と呼ばれた。いま、彼と本稿で名を出した惠尋・光宗との円頓戒の継承関係を示すなら、惠尋—惠顕—伝信興円—円観—光宗となる。<sup>69</sup> 円観は後醍醐の勅命で法勝寺住持に就いて法勝寺を律院とし、また、元弘三年（二二二二）十月二十九日には東大寺大勧進に補任されている。<sup>70</sup> とくに、国王の御願寺であるとともに、三講制度の一つである法勝寺御八講を行い、南都北嶺の僧官を統轄する役目をもっていたほどの権門寺院であった法勝寺を、たとえ院政期にもっていたかつ

ての輝かしい權威性をこの時代には失っていたとはいえ、円観が手中にしたことの意味は大きい。

この円観とともに北条氏呪詛の祈禱を行って硫黄島に流され、建武新政の帰洛後は後醍醐の厚遇をほしいままにして、財宝を倉に積み武器を傍らに集め、数百騎の兵を輿の前後に従えて宮中に参内したといわれる文観弘真も、もともと文観房殊音（殊音）と名乗る西大寺流の律僧であった。

正安四年（一二三〇）六月、叡尊の十三回忌に弟子たちが造立供養した西大寺の文殊菩薩像の胎内納入物に、文殊信仰を行った文観の西大寺流律僧としての名を見出すことができ、また、元亨四年三月、すなわち、正中の変が発覚したその年に彼が願主となり、西大寺末寺の大和般若寺に後醍醐による倒幕の成就を祈願した八髻文殊菩薩騎獅像を造立したことは、すでに守山聖真・杉山二郎・岡見正雄・網野善彦らの諸氏の研究によって明らかにされている。<sup>(72)</sup> これらのことから、不明であった文観の前半生を西大寺流の律僧であるとした先学の指摘は鋭いが、いま、彼の西大寺流律僧としての経歴で先学が指摘していないことで述べておきたいのは、彼が西大寺末寺の播磨北条常楽寺の長老であったことである。

すなわち、文観の立川流を邪教として批判した『宝鏡鈔』<sup>(73)</sup> が引用する、建武二年（一二三五）五月日付高野山衆徒奏状には、文観が「本是西大寺末寺播磨国北条寺之律僧也」と述べられている。この北条寺については、『続伝燈広録』文観伝が「賀西北条寺今日酒見寺」<sup>(74)</sup> とするのに従って、これまで現兵庫県加西市北条の真言宗酒見寺であるとしてきた。<sup>(74)</sup> これに対し、私は別稿でこの北条寺は『西大寺諸国末寺帳』の播磨国の項に「常楽寺」とその名を見出せる常楽寺のこととするべきであり、この常楽寺は現加古川市加古川町大野（旧加古郡水丘村大野）の真言宗常楽寺である可能性が高いと述べた。<sup>(75)</sup>

その際には紙数の都合で触れられなかったことだが、『加古郡誌』<sup>(76)</sup> の常楽寺の項には、『播磨鑑』を引用して「宝生山常楽寺、真言宗号多門院北条郷大野」と記されていることから、この常楽寺のある水丘・大野の地は

鎌倉期には、孝養の心は女性が男性に勝っているとの見方があったことを述べているが、惣持が教化の対象とした法華寺の尼衆も、父母への孝養を説いた『梵網經』関係の開板事業を行っていることに、ここでは注意しておきたい。

その一つは、建治元年（一二七五）六月、忍觀房真慧（のち法華寺第七世長老）が、内外の知識から数貫文の錢を勸進し、叡尊作の『梵網經古迹記』の科文を開板していることである。すなわち、大屋徳城氏の紹介になる浄蓮房嚴秀による同書の刊記に次のようにある。<sup>(54)</sup>

比丘尼真慧内外の知識に勧め、数貫の錢財を施し、この印板を開く。こいねがわくば退代に流通し、群生を導き利せんことを。

建治元年六月 日 幹縁比丘嚴秀謹んで記す。

また、弘安元年（一二七八）三月に叡尊の『梵網經古迹記輔行文集』刊行のために、興福寺一乘院のほか叡尊の弟子たちが費用を寄付した際にも、この真慧をはじめとして、嵯峨光台寺の理善房真浄、河内道明寺の法明房了祥、石清水求菩提院の真覚らの西大寺末寺の尼衆が、勸進によって刊行費用の多くを集めている。<sup>(55)</sup>この際には惣持も長衣一領を寄付しているが、四天王寺薬師院禪海や惣持など、『梵網經古迹記輔行文集』刊行に同心した男性の僧衆が、自らの（実家からの）私財を寄付したのみであったと思われるのに対し、真慧ら尼衆は、むしろ積極的に勸進活動によって費用を集めていることには注意すべきであろう。すなわち、『梵網經古迹記輔行文集』刊行は、僧衆よりは尼衆の活動によって実現したといっても過言ではないのである。

西大寺流の尼たちによる勸進活動の事例は、男性の僧衆の華やかな活動に比べ、ほとんどないといってもいいが、その数少ない事例が、いずれも父母への孝養を説いた『梵網經』関係の注釈書開板に関わっているものであることは偶然ではあるまい。

すなわち、法華寺など律宗の尼寺に入寺した女性（比丘尼）たちは、田端氏が述べるように孝養の心は女性が男性に勝っているとのイデオロギーを背景として、父母への孝養を目的の一つとしてこれらの開板事業を行ったといえるのである。

別の機会に述べたことであるが、元亨二年（一二三二）七月に法華寺綱維の比丘尼融施が改定した『法華滅罪寺年中行事』<sup>(57)</sup>に見える法華寺の年中行事のほとんどが、「毎年勤行亡者忌日等の事」の項で占められているように、法華寺尼衆の日常生活の中心をなしたのは、世俗での父母をはじめとする亡者の供養仏事であった。<sup>(58)</sup>法華寺の尼たちが父とともに母への孝養のための仏事を年中行事の中心としたのも、律宗においても家父長制によって支配されたこの時代の思潮と同じく、女性は「一切の女人皆これ母」であるという、母としての属性において尊敬され、しかも女性は孝養の心が勝れているとの、惣持ら男性の僧衆によって強調された母性尊重思想にもとづくものといえるのである。

(2) 『転女身経』の開板

このように、惣持ら中世律僧は、女性を母性機能の一面において尊重しながらも、一方で女性を五障の業を負った罪深い存在としてもとらえていた。そして、惣持らはその立場から、女性に変成男子による女人往生（女人成仏）を説いたのである。

そのことが端的に現れているのが、惣持が康元元年（一二五〇）十二月五日、法華寺の尼と有縁の女衆に勧めて『転女身経』を開板していることである。この『転女身経』の惣持による刊記は、「げにこの一卷こそは悩み多き女性が彼岸への切なる希願の結晶にてありしなり」として大屋徳城氏が『寧楽刊経史』で紹介している。いま、その全文<sup>(59)</sup>を左に掲げておきたい。

それ転女身経は、大乘了義の真詮、女人解脱の指南なり。恨むらくは我が国、時にいまだ蓋し尼女業重の使の弘まらざりしを。しかして、上、大師釈尊の深慈を負い、下、蘊結伝訳の芳懷を失えり。これによって且つは聖賢の鴻恩に報いんがため、且つは女人の重業を消げんがため、法華寺の尼、ならびに有縁の女衆に勧め、つつしみて印板を開く。こいねがわくば、永く流通し、尼女深望し、競いて受持に当たらんことを。もしくはこの経によって十法の行を修し、深心をもつてこの文に当たれ金光明経に出でたり。

悉く願わくば女人変じて男となさんことを。勇健<sup>(忠)</sup>総明にして智慧多し。一切の常行は菩薩道なり。勤修六度にして彼岸に到る。

康元元年<sup>丙辰</sup>十二月五日勸縁比丘惣持題す。

ここから、惣持は平安末期以降浸透してきた顕密仏教や家父長制による五障三従<sup>(60)</sup>と<sup>(59)</sup>同じく、女人を五障三従の重い業を負った罪深い存在としてとらえ、そのことを前提として、いったん女身を転じて男子となる変成男子による女人往生を、法華寺の尼衆、および在家の有縁の女性に教化したのである。それは、加藤美恵子氏が指摘したように、「女人往生論と罪業観は一見矛盾するかのように見えるが、この両思想は仏教の女性教化の過程で表裏一体をなすものであった。いいかえれば、罪業ある身ゆえに死後の往生論が必要になってくるのである<sup>(61)</sup>」  
と言っているものなのである。

嘉元二年(一二三〇四)十月の比丘尼円鏡の撰になる『法華滅罪寺縁起<sup>(62)</sup>』には、叡尊の法華寺復興に際し、志を同じくして大願を起こし、法華寺に集まってきた十六人の比丘尼たち<sup>(63)</sup>(それは同時に、惣持による『転女身経』開板に結縁奉加した尼たちでもあったろう)について、その臨終を次のように伝えている。

聖恵房慈善(法華寺中興第一世長老。俗姓春華門院新右衛門督) ↓ 死亡についての記事なし

文篋房基忍 ↓ 坐禪三昧で臨終(七十二歳)

隨心房則阿↓死去

觀蓮房真阿（鎌倉知足寺長老。一二二八〜九七）↓念仏往生

覺印房如円（法華寺第二世長老。東大寺戒壇院円照・真言院聖守の母）↓念仏往生

敬妙房釈念（法華寺第三世長老。？〜二六九）↓念仏往生

法如房慈念（法華寺第四世長老。一二二三〜九八）↓阿字觀にて臨終

觀如房智恩（法華寺第五世長老。一二二五〜一三〇〇）↓念仏往生

善心房妙源（法華寺第六世長老。一二二四〜一三〇二）↓念仏往生

忍觀房真恵（法華寺第七世長老。一二二九〜一三〇四）↓阿字觀にて往生

理善房真淨（嵯峨光台寺開山長老。一二五一〜九九）↓阿字觀にて往生

淨心房円真（京都東林寺開山長老）↓死去

法明房了祥（河内道明寺開山長老）↓死亡についての記事なし

寂證房心智（一二三〇〜九四）↓死去

忍篋房照聖（？〜一三〇二）↓阿字觀にて臨終

本鏡房妙遍（法華寺第八世長老。一二三八〜一三二二）↓入滅

ここから、法華寺の復興期に集まってきた十六人の尼のうち、少なくとも真阿ら五人が念仏往生、慈念ら四人が真言の阿字觀にて往生、基忍一人が坐禪三昧で往生を遂げていることがわかる。「死去」と記されている則阿ら三人は、臨終の時、紫雲がたなびき、天上の音楽が聞こえ、異香が満ちるなどの往生奇瑞が出現しなかったため、女人往生を遂げた往生人として認められなかった尼たちであろう。中世には「往生人に死穢なし」との論理があり、往生人は死臭を発しない点で「死」と区別されたことは、千々和到氏が指摘するところである。<sup>(65)</sup>『法華

滅罪寺縁起」は、法華寺を「ほとく／＼娑婆の極楽とい、つへし」と形容しているが、惣持の『転女身経』開板に結縁して変成男子による女人往生説を受け入れた法華寺の尼たちは、こうして父母への孝養とともに自らの極楽往生を祈念する人生を送ったといえるのである。

このような、惣持ら男性の僧衆によつて教化された変成男子説を受容し、『転女身経』開板に結縁した法華寺の尼が、女性としての自己の社会的存立をどのように認識していたのかをよく示しているのが、『西大寺叡尊像納入文書』の宝治元年（一二四七）六月八日付沙弥尼随教房真妙願文<sup>67</sup>である。

願わくば今生母を始め、一切衆生に至り、永く女身を離れしめ、速やかに菩提を成ぜしめんことを。願わくば我この経永く女□を離れ、生々世々邪心を起さず、この経に値遇せんことを。憶念□ず、他に悦びを広めんがため、法久住せしめよ。

沙弥尼真妙

宝治元年六月八日

ここで真妙は、男性の女性に対する優越を前提とした変成男子説を受容して、自分の母をはじめとして一切の女人が女身を離れ、女人往生を遂げることが祈願している。いわば、ここで祈願されているのは、女性としての自己の社会的存立の否定、女性としての自己の肉体と精神に対する自己疎外であるといえよう。すなわち、律宗の尼として女人往生をめざした女性は、そのことによつては自立的自己としての内面的權威性を獲得することはできなかった、といわざるを得ないのである。別の機会にも述べたように、真妙は比丘尼に昇ることはなく、弘安三年（一二八〇）以前に式叉尼<sup>ししゃに</sup>で死んでいるが、彼女が死ぬ時に、自己が女身を離れて男子になる夢を果たした見たのかどうか、もとよりわれわれには知ることはできない。

この惣持の比丘尼関係の典籍の撰集・開板を中心とした尼衆の教化活動に見られるように、中世律宗において



# 索引

## [人名]

- |            |   |
|------------|---|
|            |   |
| あ          |   |
| 阿一         | 80, 82, 132, 205, 206   |
| 足利尊氏       | 89, 134, 141  |
| 足利直冬       | 144   |
| 足利直義       | 89, 134, 141, 143   |
| 足利義詮       | 87, 88  |
| 足利義兼       | 358   |
| 足利義晴       | 333   |
| 足利義政       | 330, 332, 333   |
| 足利義満       | 88, 330, 332  |
| 足利頼氏       | 106   |
| 阿浄         | 168   |
| 安達清経       | 415   |
| 足立遠元       | 361   |
| 安達盛長       | 359, 365  |
| 安達盛長の娘     | 377   |
| 安達泰盛       | 115   |
| 安達泰盛の妻     | 99, 104~106   |
| 阿野(滋野井)実遠  | 102   |
| 阿野全成(今若)   | 365, 385, 387, 388, 393, 407  |
| 天野景村       | 94, 105   |
| 天野政景       | 105   |
| 天野政泰       | 105   |
| 阿波局[北条時政娘] | 365, 407  |
| 阿波局[北条泰時母] | 362   |
| 安徳天皇       | 391   |
| い          |   |
| 伊賀兼光       | 35, 123   |
| 石熊         | 413   |
| 伊豆有綱       | 375, 402, 406, 407  |
| 伊勢三郎義盛     | 375, 402  |
| 磯禅師        | 265, 413, 415   |
| 一演         | 374, 404  |
| 一条長成       | 368, 374, 389, 401, 406, 407  |
| 一条局        | 102, 103, 111~116, 185  |
| 一条能成       | 368, 389, 402, 406, 407   |
| 一条能保       | 373, 395, 403, 404, 406   |
| 伊藤景綱       | 387   |
| 伊東祐清       | 359   |
| 伊東祐清の妻     | 359   |
| 伊藤忠清       | 364   |
| 伊(猪)末行     | 135, 235  |
| 岩夜叉丸       | 283   |
| 印融         | 100   |
| う          |   |
| 上杉重能       | 141, 143  |
| え          |   |
| 永円         | 102   |
| 栄西         | 414   |
| 栄実         | 197   |
| 栄真         | 182, 210, 235   |
| 叡尊         | 48, 50~52, 54, 58, 67, 70, 77~86, 93~100, 103~116, 124, 127, 131~133, 135, 159~163, 169~172, 175, 176, 178, 182~190, 195~198, 200, 201, 205~212, 214, 217~219, 221, 231, 341~344, 347~350 |
| 永忍         | 81  |
| 永弁         | 81, 132   |
| 恵尋         | 51, 54, 66  |
| 江戸重長       | 356   |
| 榎氏         | 158   |
| 右衛門督局      | 102, 103, 113   |
| 円観         | 54, 55, 61, 64, 64, 66, 67, 86, 87, 124, 127  |
| 円鏡         | 214   |

円恵法親王	388
円幸	167
延寿御前	413
円照	48, 49, 70, 135, 183, 215, 342
円晴	58, 187
円證	235
円信	220
円真	215
円禅	350
延命御前	413
延命姫	347, 349

お

大井実春	369
大内惟義	364
大内(平賀)義信	104, 359, 369
大江広元	392
大友能直の娘	100
多久資	413
大姫	358, 392
小笠原長清	358
岡村すま子	263
奥平昌服	264
長田忠致	385
小田時知	165, 168
織田信長	9
小田宗知	168
阿蝶	265
小野時仲	104
小野時仲の母	95, 104
小野時信	104
小野時村	104

か

快円	58
快慶	159
覚憲	58
覚賢	172
覚日	388
学春	197
覚怨	283
覚盛	8, 58, 70, 144, 162, 184, 187, 217, 230,

232, 235, 248, 250

覚青	220
覚如	97, 162, 163, 171, 182~188
梶原景季	357
梶原性全	174
片岡弘経	402
和徳門院	220, 221
金沢篤時	98
金沢貞顕	189
金沢実時	93, 94, 97, 98, 104~107, 110, 115, 169, 171, 187~190
金沢実時の旧妻	95, 98, 104, 112
金沢実時の室	98, 105~108, 110, 112
金沢実村	98
金沢実泰の室	95
龜谷禅尼(中原師員の妻)	93, 95~98, 109, 110, 112, 115
龜菊	392, 413, 418
龜山天皇	49, 82, 84, 203, 349, 350
河越重員	371, 372
河越重時	371, 372
河越重房	357~359, 366, 369~371
河越重頼	356~359, 363, 365, 366, 369~372
河越重頼の妻	357, 359, 361, 363, 369~372
河越重頼の母	369, 370
河越重頼の娘	355, 356, 359, 362, 363, 365~368, 372~378, 384, 404~407
河辺(河野辺)駿河守	88
願西	235
観證	104, 112
勸心	30
鑑真	140, 163, 230
観理	83

き

熙允	101, 102
義円(乙若)	385, 387, 388, 393
祇王	413, 415, 417, 418
菊池氏(武時・武重・武光)	13, 15
菊夜叉丸	283
宜秋門院	392

祇女 413, 415, 417  
 木曾義高 358  
 木曾義仲 357, 358, 364, 402  
 北畠親房 15, 87  
 基忍 214  
 義能 188  
 行阿 79, 80  
 鏡惠(慧) 81, 131, 132, 206, 219, 343  
 慶円 64, 65, 124, 134~140, 142, 144, 145  
 行基 138, 159, 232  
 行賢 199  
 京極持清 335  
 堯清 347  
 行清 347~350  
 行禅 210  
 凝然 54~61, 63, 69, 70, 175  
 行遍 27  
 鏡瑜 131, 132

<

空海 136  
 宮清 341~344, 347, 348  
 空如 231  
 草地九衛門尉 137  
 九条院 385, 387, 389, 390, 393, 395  
 九条兼実 375, 391, 392, 402, 405  
 九条道家 300, 307  
 九条頼経 96~99, 110, 115  
 楠木正勝 88  
 楠木正成 13, 15, 78, 86, 88~90  
 楠木正行 78, 86, 88, 89  
 楠木正儀 77, 78, 86~90  
 楠木正元 88  
 工藤祐経 377

け

慶印 131, 132, 206  
 恵顕 66  
 慶玄 196, 197, 349  
 継実 160  
 慶世 283  
 慶政 171, 172

慶尊 235  
 慶朝 135  
 見阿[金沢実時使僧] 94, 187, 190  
 見阿[河内国府禅尼] 218  
 釵阿 102, 189  
 源意 81  
 源海 55, 167, 182  
 玄基 81, 235  
 兼好 128, 246  
 敏秀 212  
 源秀 132, 205, 206  
 建春門院 367  
 憲静 28, 49, 50, 52, 54  
 元正天皇 83  
 賢信 132  
 賢心 393  
 賢善 132, 133  
 源智 252  
 顕珍 205

こ

光厳天皇 66, 131, 137  
 弘実 176  
 弘春 234  
 幸清 343  
 幸清の娘 342  
 光宗 54, 55, 66  
 幸尊 81, 132, 205, 206  
 後宇多天皇 27, 57, 60~63, 175, 417  
 高師直 86, 89, 141, 143  
 高師冬 168  
 高師泰 141, 143  
 光明天皇 66  
 光耀姫 347  
 久我長通 130  
 久我通雄 347  
 虎関師鍊 54, 55  
 後嵯峨天皇 344, 345, 347, 349  
 後白河天皇 357, 364, 367, 369, 388, 390, 391, 393, 402, 404, 407  
 後醍醐天皇 13~15, 34, 35, 54, 60~62, 64, 66, 67, 69, 86, 90, 123~126, 128, 129,

133~136, 138, 140~142, 144, 145	
後鳥羽天皇	7, 391, 392, 413, 418
近衛天皇	385
近衛基通の娘	109
後深草天皇	415
後伏見天皇	66
後堀河天皇	304
後村上天皇	88, 89
後冷泉天皇	203, 394
惟宗広言	359

さ

西園寺実衡	65, 66, 128
雑賀隼人佐	124
最珠	135
催馬楽	415
嵯峨天皇	394
坂上田村麻呂	393
佐川官兵衛	263
桜庭良遠	366
佐々木高綱	357
佐々木尊誉	89
佐々木信実	104
佐々木秀義	364
佐藤忠信	361, 375, 402, 407
佐藤継信	407

し

志一	143
慈円	141, 300, 307
慈济	182, 185
慈照	182
静	186, 265, 355, 356, 366~368, 372, 373, 376, 378, 403, 413~418
慈善	211, 214, 231
実海	132
実禅	235
実誉	334
慈念	215
渋谷重国	357
島津忠久	359
島の千歳	413

下河辺政義	369
釈念	215, 231
寂滅	159
十郎大夫	358
守覚法親王	403
守清	347, 349, 350
春雅(俊雅)	141
俊海	172
諄芸	234
俊才	63
俊苒	58
順忍	172, 175
照恵	87
生恵	132
性海	51, 93, 132, 169, 200
性観	101, 102
貞慶	56, 58, 59, 142, 230~232
乗月	350
承兼	304
證玄	132, 135, 206, 232~235
聖弘	361
成孝	334
定慈	132
聖守	49, 50, 54, 215
乗春	138
貞俊	235
定春	58
定舜	162, 169, 171, 172, 182~184, 186, 187, 189, 190
成真	182
静心	133
尚清	347
照聖	215
紹清	343
乗詮	160
浄禅	144
聖尊	235
璋尊	81, 132
乗台	104
乗台の本妻	104
静智	242
聖徳太子	178, 217

少弐資能 78  
 證然 220  
 聖然 220  
 靜然 65, 66, 127, 128, 129, 131  
 盛遍 107, 112, 113  
 乘弁 273, 274  
 性瑜 81, 131, 132, 205, 206  
 小輔局 103  
 助清 345~347  
 真阿 170, 215  
 真惠(慧) 212, 215  
 尋慧 140  
 審海 101, 102, 109  
 深快 103  
 真覚 212, 220, 221  
 信基 131, 132  
 信空 81, 132, 178, 198, 205~208  
 真空 8  
 信玄 198, 208, 210  
 親玄 188  
 新三郎 333, 334  
 尋算 235  
 信昭 134  
 真浄 212, 215  
 心智 215  
 信澄 137  
 審重 132  
 信如 217, 218  
 真妙 216  
 神武天皇 246  
 親鸞 52, 59, 77, 193, 195  
  
 す  
 菅原道真 271, 283, 306, 313  
 崇徳上皇 393  
  
 せ  
 清算 62, 63  
 清少納言 246, 247  
 盛増 283, 334  
 清和天皇 374, 404  
 摂津掃部頭能直 88

禪恵 187  
 禪雅 132  
 禪海 178, 206, 212  
 禪覚 132  
 善基 131, 132  
 仙空房 63  
 善賢 132  
 禪助 62  
 禪心 197  
 善如 103  
 宣瑜 128  
 宣陽門院 391  
  
 そ  
 宗淵 301, 302  
 双円房 81  
 宗覚 138  
 惣持 81, 132, 195~201, 204~214, 216~219, 221, 222  
 宗性 58  
 惣信 205  
 宗廉 403  
 曾我兄弟 377  
 十川豊子 308, 309  
 十川夏彦 308, 309  
 十川正義 270, 308  
 則阿 215  
 帥典侍 368  
 其駒 415  
 尊鏡(智徳房) 64~66, 124~127, 129~134, 136, 140~145  
 尊俊 131, 132  
  
 た  
 平兼時 364  
 平兼衡 364  
 平清盛 8, 385, 387, 388, 391, 393, 400~402, 406  
 平維盛 7  
 平重衡 388  
 平重盛 358  
 平経正 357, 358

平時子	367, 402
平時実	367, 368, 402
平時忠	367, 368, 402
平時忠の娘	355, 367, 368, 376
平業房	391
平信兼	364
平宣子	368
平信衡	364
平宗盛	366
平基親	99
平師盛	358
平能宗	366
平頼盛	387
高倉天皇	367, 388, 391
高階栄子	390~393
鷹司基忠の娘	109
田口成良	366
種子島時氏	177
丹後内侍	359, 365
丹波忠茂	114
ち	
智恩	215
智舜	58
智照	134
智祥	182
秩父重隆	357
秩父重継	357
秩父重弘	357
忠(仲)円	64, 124, 127, 141
重海	140
長慶天皇	88
重源	183
澄禅	235
つ	
通慶	83
土御門顕方	111, 113, 114
土御門顕実	114
土御門雅方	114
土御門通方	111, 114
土御門通継	114

秩父重綱	357
妻御方	103
津守国業	81
て	
照姫	263, 264
伝信興円	66
と	
道海	140
導御	235
道元	52, 193
道源	200
道俊	132
道昭	83
道宣	209
道登	83
常盤	368, 372~375, 384~390, 392~407
常盤の母	385~387, 389, 398, 400
土佐房昌俊	369
とち(閉)	417
鳥羽天皇	393, 413
伴貞行	158
豊島直治	358
虎松丸	273~275, 312
都藍尼	416, 417
な	
長井遠江守	124
中野こう子	263
中野竹子	263
中野優子	263
中原師具	95, 96, 97
名越時章	100, 362
名越朝時	104, 362
名越教時	100, 116, 362
名越教時の母	100, 109
名越光時	100, 115, 362
成島柳北	264, 265
名和長年	13

に	
二階堂時元	124
二階堂行綱	105
二階堂行綱の妻	104, 106
西御方	114
西八条禪尼	8
二条天皇	359
日典	177
日蓮	52~54, 77, 157, 177, 193, 195
新田義貞	13, 15
新田(世良田)頼氏	106
如印	221
如円	215
忍恵	220, 221
忍空	135, 136
忍性	70, 97, 109, 157~178, 182~184, 186~190, 195, 196, 201, 206~208, 211
ね	
然豫	334
の	
能悦	283
能喜	283
能教	112
能吐(岩満磨)	282
能俊	283
能松(梅満丸)	281, 282
能勝(梅夜叉丸)	275, 282, 316, 335
能信(千満磨)	276, 278, 281~283, 304, 309, 310, 315
能椿(千夜叉丸)	276, 282~284, 304, 315, 316, 331, 332, 335
能哲	282, 283, 316, 317
能徳	273~275, 312
能特(乙寿磨)	276, 278, 281, 282
能福	271, 282
能祐(鶴夜叉丸)	276, 282, 283, 315, 316
は	
白居易	393

畠山国清	143
畠山重忠	356, 357, 363, 369, 371, 372, 377
畠山重能	357, 363
畠山直宗	141, 143
八田知家	165
花園天皇	62, 64, 66, 82, 126
春菊	415
潘阜	78
範祐	199
ひ	
比企遠宗	359
比企朝宗	359, 361, 362, 369
比企朝宗の妻	362
比企尼	357, 359, 361~363, 370, 372, 377, 378
比企宗員	359
比企能員	361, 362, 365, 369
日野資朝	64, 66, 125, 126, 128
日野俊基	64, 125
美福門院	393
微妙	414, 418
姫前	362
平賀朝雅	104, 359
平田家継	364
ふ	
古郡保忠	414
福松丸	304, 306, 307, 316, 317
葛井親王	394
伏見天皇	176
藤原氏	196, 197, 349
藤原明子	374
藤原兼雅	388
藤原寛子	394
藤原祇子	394
藤原(坊城)公敦	103
藤原(坊城)公敦の室	103
藤原兼子	392
藤原伊通	385, 389, 390
藤原季範の娘	395
藤原忠実	393

藤原忠通	389, 393
藤原秀郷	246
藤原秀衡	373, 375, 404, 405
藤原政康	80
藤原通憲(信西)	413
藤原明子	404
藤原師実	394
藤原泰衡	373, 375, 404
藤原頼経	102, 371
藤原頼長	393, 396
藤原頼通	394
仏性房	188
フビライ	78
文首阿志高	198
へ	
別当局	114
弁慶	375, 376, 402
ほ	
房玄	87, 188
北条(大仏)清時	100
北条重時	99, 108, 115, 173, 362, 413
北条重時の後家[北条長時の母]	99, 115
北条重時の後家[北条義政の母]	99, 104, 105, 112
北条資時	100
北条高時	123
北条時国	203
北条時定	406, 407
北条時輔	115
北条時直	100
北条時範	108
北条時広	100
北条時広の妻	100~102, 113
北条時政	359, 362, 363, 365, 372, 377, 388, 402, 407
北条時通	107
北条時宗	100, 110, 115, 116, 174
北条時村	203
北条時村[北条時広の父]	100
北条時村[北条政村の男]	109, 110

北条時茂	108
北条時茂の室	108~110
北条時頼	93, 94, 97, 110, 115, 116, 189, 200
北条時頼の室	98, 99
北条長時	99, 173
北条長時の妻	99
北条業時	109, 171, 173
北条政子	95, 361, 362, 365, 378, 414, 415
北条政村	97, 103, 106~108, 110, 116
北条政村の室	99, 105, 107~110, 115
北条政村の新妻	99, 108~110
北条泰時	350, 362
北条義時	362, 365, 371
北条義政	104
宝清	342~344
法然	58, 59, 193, 194, 195
坊門姫	395
保科正丕	263
細川清氏	89, 143
細川元治	334
細川頼之	88
仏御前	413, 415, 417, 418
堀景光	361, 402
堀親家	358
堀内殿	115
ま	
松下禪尼	99
松平容敬	264
松平容保	263, 264
松夜叉丸	273~275, 312
み	
三浦泰村	115
三浦義明	356
三浦義澄	361
三浦義村	115
源景親	196, 197, 210
源実朝	8, 371, 388, 407
源為守	125, 126
源為義	359, 393, 396
源仲綱	406



源憲経 199  
 源憲俊 199  
 源範頼 357, 364~366, 372, 377  
 源希義 395  
 源通親 114  
 源盛影 197  
 源行家 388, 402  
 源義賢 357  
 源義経 186, 355~359, 361, 363~377,  
 385, 384, 388, 389, 395, 396, 401~406,  
 413~416  
 源義経の妹 373, 374, 403, 404, 406, 407  
 源義朝 359, 385~387, 389, 393~396, 398,  
 400~402, 407  
 源義平 357  
 源頼家 357, 361, 363, 365, 372, 414  
 源頼朝 8, 172, 356~359, 361~366, 369,  
 370~378, 387, 388, 392, 395, 401~405,  
 407, 415, 416  
 源範頼 359  
 源頼政 406  
 美濃局 102, 103, 111, 113, 114  
 明恵 8, 58  
 妙吉 141, 143, 144  
 妙源 215, 220  
 明俊 343  
 明舜 234  
 明昭 199  
 明清 343, 347  
 明禅 58  
 妙相 241  
 妙遍 215  
 妙法 219  
 三善高子 393

む

無住 54, 55, 56, 165~167, 185  
 夢窓疎石 8, 86, 87, 134, 141, 143, 144  
 武藤景綱 105  
 武藤諸郷の妻 105  
 宗尊親王 102, 103, 106, 111, 113, 114, 116  
 村上天皇 301

も

護良親王 123, 141  
 文覚 7, 8  
 文観弘真 14, 15, 35, 54, 61, 64, 65, 67~70,  
 86, 123, 124, 126, 127, 133, 134, 136, 140,  
 142~144  
 文徳天皇 374, 404

や

安田義定 358  
 柳禪尼如鏡 341~350  
 山名氏清 330  
 山内首藤経俊 364

ゆ

湯井 103  
 惟基 132  
 游雅 126  
 宥快 15  
 結城朝広 104  
 有巖(慈禅) 58, 162, 183, 184  
 祐算 81  
 融施 213  
 祐清 343, 347  
 雄略天皇 246

よ

楊貴妃 385, 390, 391, 393  
 耀清 343~348  
 吉田経俊 341, 345  
 吉田経房 369  
 依田菊子 263, 264  
 依田源治 263  
 依田まき子 263

ら

頼玄 104, 168, 169, 170, 182, 190, 200  
 頼照 63

り

李夫人 385

隆恵	132
隆賢	132, 206, 207, 235
隆垂	185
隆清	185, 343, 344, 346
良印	235
良賢	115, 132
了祥	212, 215, 218
了証	166
良清	350
良忍	132
良遍	235

れ

蓮忍(賢日)	388
蓮念	99, 107, 108

ろ

朗清	350
廊の御方	388, 406
六代	7

わ

若菊	415
若狭局	365
和歌の前	413

【寺社名・地名】

あ

会津若松城	263, 264
赤坂城	89
安居院悲田院	170
愛宕山	141
賀名生	88
安倍文殊院	159
蟻通明神	247
粟田口	284, 303, 305, 335
粟津	357

い

壱岐	79
生駒山	201, 207, 218
生駒山竹林寺	159, 178, 235
石田莊	112
伊豆	359
伊豆山権現	163, 186
伊勢神宮	51, 403
一条河崎観音堂	374, 403~406
一条雲寺	144
一条堀川	143, 144
一ノ谷	357, 358
櫟本	197
一本杉	284
稲村ヶ崎	176
猪熊	413
新日吉社	369, 370
今宮神社	395
岩倉	373, 374, 403~405
石清水求菩提院	212, 220
石清水善法寺	140
石清水八幡宮	79~82, 84, 144, 176, 185, 341, 342, 345~350
岩船地藏堂	169

う

宇佐八幡宮	82~84
-------	-------

宇治	357
宇治川	50, 51, 83~85, 357
宇治橋	50, 83~85, 96, 109, 175, 176
宇陀郡	406
内里	344, 345, 347, 348
内野	330
雲林院	396
え	
叡福寺	178
永福寺	177
江ノ島	176
家原寺	163
恵林寺	9
お	
老松社	307
大忍莊	174
大津	138
大原口	305
大船津	164
大峰山	416, 417
か	
海蔵寺	169
海龍王寺	81, 132, 197, 205
額安寺	159, 178, 197
笠山竹林寺	68
鹿島社	164, 165
春日社	48, 136, 137, 140
霞ヶ浦	164
勝浦	366
桂	85
香取	369
蟹満寺	248
金洗沢	176
上桂莊	27
上賀茂社	304
亀ヶ谷	94, 96, 98, 107, 169, 188
河上郷	304
河越莊	366, 369, 370, 372
元興寺	83

神崎	89
願成寺	182
き	
祇園社	48, 316
喜光寺	51, 93, 132, 200
城田寺	413
北浦	164
北野社	269, 270, 271, 274, 275, 281, 282, 284, 285, 300, 301, 303, 304, 306, 307, 312~314, 318, 321, 325, 329~335, 337
吉水院	185
衣笠城	356
経王堂(経堂)	330, 333
教興寺	80, 81, 132, 205
清水坂	88, 394
清水寺	374, 385, 386, 390, 393~395, 398, 401, 404, 405
金峯山寺	185
く	
草内	135, 138, 140
草内十蔵寺	135
草内法泉寺	138
久修園院	138
楠葉	136~138, 140, 145
久米田池	87
久米田寺	87
棕橋莊	418
鞍馬	246
鞍馬口	305
鞍馬山	389
鞍馬寺	372, 374, 388, 403~405
桑谷療病所	173, 174
け	
敬聖院	218
敬田院	196
こ	
高山寺	8
光台寺	212, 215

興戸	135, 140
興戸興善寺	135
光念寺	395
紅梅殿社	313
興福寺	48, 136~138, 140, 361, 375, 405
興福寺一乘院	199, 212
興福寺大乘院	140
高野山	8, 9, 62, 67, 68, 197, 417
高野山金剛三昧院	136
広隆寺桂宮院	235
極楽寺	109, 165, 168, 170~178, 182, 185, 206, 210, 235
極楽寺坂	177
五大堂	177
衣川	373, 375, 404
誉田八幡宮	201~204

さ

西大寺	62, 65~68, 81, 93, 96, 97, 115, 124, 127~130, 132~134, 138, 158, 162, 163, 165, 171, 178, 184, 185, 189, 190, 198~ 200, 206, 207, 209, 211, 219, 231, 341, 342, 349
西大寺護国院	81, 131, 205
西大寺大慈院	132, 206, 235
西琳寺	81, 128, 129, 132, 195, 198~205, 207, 208, 217, 218
佐江戸(土)郷	100~102
嵯峨	141, 417
嵯峨清凉寺	187
坂下馬病屋	173, 174
酒見寺	67
佐女牛西洞院	413
左(佐)女牛東洞院	367
三会寺	100
三条大宮	129, 130, 133
三条権匠(櫛笥)	130

し

塩橋村	112
慈音寺	177
志賀島	79

信楽玉桂寺	252
信貴山	158
宍塚般若寺	55, 165~167, 182
四条巖	86
信太荘	27
紫竹村	395, 396
四天王寺	79, 177, 178
四天王寺薬師院	79, 206, 212
四宮馬場	200
十蔵寺	138
寿福寺	414
浄願寺	169, 171
松光院	333
上行寺東遺跡	169
浄光明寺	172
浄住寺	79, 80, 96, 109, 132, 200
浄智寺	144
勝長寿院	369
常德寺	395
浄土寺	64
松梅院	269, 270, 283, 325, 331, 332, 334
浄福寺	182
正法寺	197
称名寺	66, 94, 101, 102, 104, 129, 165, 169, 171, 187, 189, 190
常楽寺	67, 68
神護寺	8
新勅旨田	27
新清凉寺釈迦堂	94, 97, 104, 162, 169, 182, 186~188
神泉苑	129~131, 133, 136, 145

す

鈴鹿山	364
墨俣河	388
住吉	86
住吉社	79, 81, 82, 184

せ

青松院	337
清凉寺谷	94, 95, 169, 188
瀬田	357

瀬田(勢多)橋 175, 176  
 泉州 171  
 泉湧大路橋 388  
 泉涌寺 28, 49, 162, 183, 342  
 泉福寺 132, 205  
 千本 284

た

大安寺 81, 187, 235  
 大雲寺 374, 403~405  
 大覚寺 60~63  
 大覚寺不壊化身院 61~63  
 大休寺 143  
 大湖庵 395, 396  
 醍醐 200  
 醍醐寺 68, 87, 196, 197  
 醍醐寺安養院 197  
 大徳寺 395  
 大仏 177  
 大仏谷 170, 173  
 大仏悲田 170, 171  
 大物浜 372, 373  
 高屋城 208  
 高屋宝生院 208, 218  
 竹田口 284, 305  
 大宰府 271, 418  
 多田院 177  
 竜口 79  
 田辺池 176, 177  
 種子島 177  
 多宝寺 172  
 太良荘 27, 30, 33  
 壇ノ浦 366, 388, 402

ち

知足寺 170, 215  
 中宮寺 217, 218  
 長岳寺 160  
 長久寺 168  
 長講堂 391  
 長福寺 66, 129, 130, 131, 133, 134

つ

対馬 79  
 鶴岡八幡宮 114, 170, 172, 415

て

転法輪寺 178  
 天龍寺 417

と

東慶寺 8  
 東寺 26 ~ 29, 48, 49, 62, 68, 69, 103, 321, 323  
 東寺口 284, 305  
 東城寺 165~167  
 道成寺 412, 417  
 唐招提寺 64, 124, 132, 135, 139, 140, 142, 144, 162, 163, 165, 178, 184, 206, 217, 228~230, 232, 233~235, 239, 240, 241, 243, 248~250, 252, 253, 342  
 東漸寺 100  
 東大寺 48, 68, 83, 175, 177  
 東大寺戒壇院 48, 135, 183, 215, 342  
 東大寺真言院 215  
 東大寺新禪院 49  
 多武峯 403  
 道明寺 178, 212, 215, 218  
 東林寺 215  
 土岐多良荘 112  
 常葉 103, 107  
 徳勝院 269, 270  
 鳥羽 391  
 鳥羽伏見 263  
 鳥羽離宮 307  
 豊浦寺 220

な

長井の渡 356  
 長江荘 418  
 長坂口 305  
 名越 362  
 名越坂 177

那須野	95
生津	283
奈良坂	160, 161
奈良坂北山宿	160, 251, 252

に

西岡	333
西七条口	284, 303, 305
西京	269, 284, 301, 303, 307, 321, 325, 329~336
二条富小路殿	66, 126, 128, 129, 133
仁和寺	141, 143, 301, 403
仁和寺菩提院	27

ぬ・の

額田部宿	160
延方	164

は

博多	78, 82, 162, 171, 184
橋本宿	241
八幡善法寺	135, 136
八幡大乘院	138, 341, 349, 350
服寺	232
浜悲田	170~172
拝師荘	27
般若寺	67, 81, 132, 161, 178, 200, 205, 207

ひ

比叡山	141, 372, 404
比叡山延暦寺	55, 269
東悲田院	170
東山太子堂	96
比企谷	361
比企郡	359, 361
白毫寺	62
平等院	83, 84
屏風里	158
鴨越	358
平泉	355, 376
平岡社	79
平野殿荘	27

平松下	332
毘盧舎那院	218
琵琶湖	200

ふ

深沢	173, 414
福井	112
福州	171, 190
福泉寺	164, 165
富士の裾野	377
伏野保	112
伏見	305, 386, 398~400, 415
二股川	371
仏法寺	176
船岡山	396
普門院	164
古河荘(菅井荘)	139, 140
古海郷	112

へ

遍照心院(大通寺)	8
-----------	---

ほ

法金剛院	235
宝成院	284
法泉寺	135, 235
宝蓮華寺	203, 204
法華山寺	171
法華寺	178, 200, 211~216, 218, 220, 221, 231

法勝寺	86, 87
法性寺口	284, 305
堀川	413

ま

馬司	160
摩尼珠院	218
曼殊院	269, 270, 283
万福寺	175

み

三上山	246
-----	-----

水落寺	176
御手洗寺	164, 165
箕田里	196, 197
壬生官務堀	284, 331
三村山	168
三村寺	55, 104, 162, 164~166, 168, 171, 182, 189, 190, 200
三村尼寺	166
妙蔵院	269, 270, 332
三輪宿	160
む	
六浦	169, 171
紫野	395, 396
無量寿福寺(無量寺)	100~102
室生寺	135, 136
室津	79
め	
明州	171, 190
や	
屋島	366
八嶋屋の井	284, 331, 332, 336, 337
柳橋	264, 265
矢野荘	27
八幡山	88
山崎橋	138
ゆ	
由比ヶ浜	170, 175, 415
由比若宮	172
弓削島荘	27
よ	
横岡郷	95
吉野	86, 185
吉野山	162, 186, 369, 372, 403, 416, 417
吉野如意輪堂	86
淀津水垂	307

り	
龍華寺	169
竜門牧	386, 389
霊山山	176, 177
霊山寺	182
れ	
霊光寺	177
ろ	
六条河原	366
六条西洞院	357
六条堀川	359, 364, 366, 395, 402
六条室町	364, 366, 402
六孫王神社	8
六波羅	64, 108, 109, 124, 126~128, 133, 134, 386, 387, 395, 398, 400, 401, 413
わ	
和賀江島	172, 175
和田塚	170
和爾宿	160, 211

◎著者略歴◎

細川 涼一 (ほそかわ りょういち)

1955年東京生。中央大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。現在、京都橘大学文学部教授。

主要著書：『中世の律宗寺院と民衆』（吉川弘文館、1987年）『中世の身分制と非人』（日本エディタースクール出版部、1994年）『中世寺院の風景』（新曜社、1997年）ほか。

にほんちゆうせい しゃかい じしや  
日本中世の社会と寺社

2013(平成25)年3月10日発行

定価：本体7,700円(税別)

著者 細川涼一

発行者 田中 大

発行所 株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話 075-751-1781(代表)

印刷 亜細亜印刷株式会社  
製本 亜細亜印刷株式会社

©R. Hosokawa

ISBN978-4-7842-1670-3 C3021